

色彩浮造り合板の技術移転

技術部 製品開発グループ 松本久美子
(有) 杏和建具 (有) Y・IMAGINE

～色彩浮造り合板とは～

北海道の人工林から出材されるトドマツやカラマツなどの針葉樹材は、主に構造材や梱包材などに利用されています。そうした針葉樹材の高付加価値化と用途拡大を目指して、内装材や家具材として利用することが可能な、デザイン性の高い色彩浮造り合板の開発に取り組みました。

色彩浮造り合板は、顔料等で着色した接着剤を用いて単板を積層し、製造されます。合板表面をブラシを使って削る「浮造り」を施すことで合板表面の木目に沿って着色された接着層を露出させます。着色する色を変えることによって様々なイメージを創出することができ、表面に凹凸が付くことで特徴的な外観を持つ合板の製造を可能にしました（特許出願中：特開2009-241571）。



合板の製造（着色済接着剤の塗布）



カラマツ色彩浮造り合板（左：ロータリー単板 右：スライス単板）

*針葉樹は春から夏にかけて形成される早材部が夏過ぎに形成される晩材部よりも柔らかいため、材の表面を研削すると早材部の方が深く削れ、晩材部が浮き出てきます。このことを利用して木目を引き立たせて見せる加工を浮造りといいます。

～技術移転～

色彩浮造り合板の製品化・技術移転に当たっては、その性質や製法を考えると少量多品種的な生産が向いていることや旭川市やその近郊が全国でも有数の家具の産地であることを考え、建材のほかに家具材としての製品化も視野に入れながら、民間企業との連携を模索しました。

その中で、デザインを(有) Y・IMAGINE、製作を(有) 杏和建具という連携態勢を確立し、製品化に向けての準備を進めていきました。平成21年度には、(有) 杏和建具が旭川市より、ものづくりに対する助成をいただき、製品化に至りました。



IROシリーズ
ディスプレイケース

・色彩浮造り合板は、平成18年度JSTシーズ発掘試験、平成19～20年度トステム財団研究助成により研究・開発が行われました。

・家具「IRO」シリーズは、平成21年度に旭川市が行う「ものづくりもう一押し支援事業」に採択され、製品化が進められました。